

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	生物学 Biology	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山本 文次
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	通年
コース	昼間 I 部			(単位)	4	曜日・時限	水曜日・3限

【授業の学習内容】

多様な生物の共通点やその特徴及び様々な生命活動を知ることにより、生物についての理解を深める。
生物について、具体的な生命活動の学習を通して知識を広げ、理解を深める。また、生命活動の仕組みやその意義を知る。
生物個体を構成する器官や組織の働きを学び、器官や組織が生命活動にどのように関わっているのかを理解する。
生物学が生理学・解剖学などの学習内容と関連することに気づき、他の科目の学習と結びつけることにより、その科目の学習内容への理解等を支えることができるものとする。

実務者経験：1982年～2003年まで中断を含め通算12年、中学校で理科を教える。

【到達目標】

生物について、具体的な生命活動の学習を通して多くの知識を習得し、理解を深める。生命活動の仕組みやその意義を知る。生命を維持する仕組みが個体を構成する器官や組織でどのように働いているかを理解できる。

＜具体的な目標＞

- ①生命の基本単位である細胞:細胞の構造と働き、細胞分裂、個体の成り立ちについて理解し説明できる。
- ②自己増殖性を持つ(自分と同じ種の個体をつくらることができる):発生、遺伝、DNAのはたらきについて理解し説明できる。
- ③自己調節性を持つ(刺激に対して反応し、恒常性を維持する):刺激の受容と反応、神経系について理解し説明できる。
- ④体液の恒常性(血液の働き:免疫の仕組み、自律神経・ホルモンによる体液の恒常性を維持する仕組みについて)理解し説明できる。
- ⑤エネルギー代謝:生体を構成する物質、同化と異化、酵素とその働きを学び、生命活動と体内の化学反応との関係を理解し説明できる。

授業計画・内容

1回目	ガイダンス 生物学を学ぶにあたって、日常生活と生物学、他の教科との関わりについて理解できる	16回目	体内環境の恒常性が理解できる
2回目	生物の特性、生物の系統分類、人間の活動が生態系へ及ぼす影響などについて理解できる	17回目	血液の組成とその働き、ガス交換について説明できる
3回目	細胞の構造と細胞小器官の働きについて知る	18回目	生体防御とその仕組みについて理解できる
4回目	細胞膜、ミトコンドリアなど細胞小器官の構造と働きを知り、理解できる	19回目	刺激の受容と感覚について理解できる
5回目	動物個体の成り立ち、動物の組織、ヒトの器官系とその働きについて説明できる	20回目	受容器の構造と受容の仕組みや調節の仕組みについて説明ができる
6回目	生体を構成する物質（タンパク質・核酸など）の構造と働き等を理解する	21回目	ニューロンの構造や興奮・興奮伝導の仕組みについて理解できる
7回目	生体内の代謝と酵素の働きについて理解し説明できる	22回目	興奮の伝達の仕組みやその経路について理解できる
8回目	エネルギーと代謝について理解できる	23回目	ヒトの神経系とその働きについて説明できる
9回目	メンデルの遺伝子仮説について理解できる	24回目	筋肉の構造と収縮の仕組みについて理解できる
10回目	遺伝子仮説が当てはまらない遺伝と遺伝子について説明できる	25回目	腎臓や肝臓の働きにつて理解できる
11回目	遺伝子の本体がDNAであることを示す実験結果について理解できる	26回目	自律神経系その働きについて説明できる
12回目	遺伝子の本体がDNAであることを理解し説明できる	27回目	内分泌腺とホルモン及びその働きについて説明できる
13回目	DNAの複製の仕組みとタンパク質合成の過程について説明できる	28回目	自律神経系と内分泌系の協調による調節について理解できる
14回目	確認テスト	29回目	確認テスト
15回目	まとめ	30回目	まとめ

準備學習
時間外學習

各授業は、第1回より一連の流れによって進めていくため、必ず前回の授業内容を理解し知識を蓄えていることが大切です。その為には、毎時間ごとの復習(何を学んだか、どのような内容であったかなど)を簡単におこなってください。

生理学・解剖学の分野に深く関わる学習内容を取り扱う場合は、それらの科目との関連を意識した復習が必要です。練習問題を活用してください。

評価方法

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 定期試験(100%) | 評価方法はGPA制度となります |
| 2. 小テスト(%) | 100~90点 S |
| 3. レポート(%) | 89~80点 A |
| 4. 課題成果(%) | 79~70点 B |
| 5. 実地試験(%) | 69~60点 C |
| | 59点以下 F不合格 |

試験を基に評価する。
受講態度、出欠の状況などを加味し総合的に評価する場合もある。

受講生へのメッセージ

生物学では、私たちの体内の器官や組織・細胞で行われていることを学びます。これは、国家資格の取得に関係する科目を学ぶための基礎・基本となり、専門科目（生理学や解剖学など）を学習をする上で理解をさらに深めることになります。専門職としての知識・技能を高めるために必要な科目として、生物学の学習に取り組むことが大切です。授業を大切にし、授業中に理解するように努めることがポイントになります。ぜひ生物学に興味を持ち好きになってください。

【使用教科書・教材・参考書】

【使用教科書 教科 参考書】
視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 新課程(数研出版)

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	外国語 (Foreign Language)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ILC Michael Earnest
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	前期
コース	I 部			(単位)	4	曜日・時限	火曜 3限

【授業の学習内容】

患者が来院して、外来受付から各科での受診、検査、治療、会計までの各場面で基本的な英語コミュニケーション力を習得するため、基本語彙や重要表現を「聞いて理解できる」「話すことができる」「読んで理解できる」「書いて表現することができる」ように、座学、ロールプレイ、CDによる音声により学習する。
実務者経験：TESOL(英語教授法)の修士号を取得し、2002～2009年まで英語非常勤講師として教育に携わる。2010年より(株)国際教育社において専門学校での英語教育(基礎英語、ビジネス英語、医学英語)に携わる。

【到達目標】

病院現場での英語での会話を理解し、英語での対応が必要な状況で貢献できるようになる。授業中のコミュニケーション練習により一般病棟や鍼灸科での英語話者である患者の診察、援助、指示する際に必要となる英語のインプット、アウトプットの両方の能力を養う。

授業計画・内容

1回目	Lesson1.1-1.2 イントロダクション、受付で患者に挨拶できる。
2回目	Lesson1.3-1.4 初診の患者への対応ができる。問診書を記入できる。
3回目	Lesson2.1-2.3 電話対応ができる。患者とアポイントメントについて調整できる。
4回目	Lesson2.4-2.5 治療費、クリニックのロケーションを説明できる。
5回目	Lesson3.1-3.4 患者との簡単な会話ができる。
6回目	Lesson3.5-3.8 治療前、患者と意見交換できる。
7回目	Lesson4.1-4.5 患者の訴えを理解できる。患者の症状を尋ねることができる。
8回目	Lesson4.6-4.10 生活習慣について、また病歴について尋ねることができる。
9回目	Lesson5.1 治療前、治療方法について患者に説明できる。
10回目	Lesson5.2 治療前または治療中に、患者に指示できる。
11回目	Lesson6.1-6.2 治療中、患者に治療の手順を説明できる。
12回目	Lesson6.3-6.4 灸治療、電気鍼療法について説明できる。
13回目	復習
14回目	定期試験
15回目	定期試験返却、解説

準備学習 時間外学習	授業の前に、教科書をよく読み、予習が必要。
---------------	-----------------------

評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
------	---	--

受講生への メッセージ	受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。 英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

「鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック」ワイマン・ゴードン、大饗里香 著

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	情報社会学 (Sociology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	熊崎 悦子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
コース	昼間 I 部					曜日・時限	火曜日・1限

【授業の学習内容】

授業内容: Wordでビジネス文書の作成やポスターの作成ができます。Excelで表の作成やグラフの作成ができます。PowerPointではスライドを作成し、発表をすることができます。ホームページ制作では、パーツの組み合わせでホームページを作成することができます。

実務者経験: 専門学校や大学にて、Microsoft officeやHP制作などのPCに関係する授業を約22年行う。就労移行支援事業所のPC講座を約11年行う。25年以上Webなどのプログラミング業務も行う。基本情報処理技術者、MOS(Excel365)、工業高校教員2級、博物館学芸員を所持。

【到達目標】

- Word: 基本操作を覚えることで、簡単なビジネス文書作成や図形、イラスト、写真などを使った視覚的な書類の作成ができる。
- Excel: 基本操作や基本関数を覚えることで、計算式の入った表やグラフを作成できる。
- PowerPoint: 基本操作を覚え、スライド作成の手順を学ぶことで、見やすく説得力のあるスライドを作成し発表をすることができる。
- ホームページ制作: ホームページを作る上での注意をすることやパーツを組み合わせる基本操作によりホームページとは何かを理解し作成することができる。
- タイピング練習: タイピングのスコアが最初よりも+10以上上がり、タイピングスピードが速くなる。

授業計画・内容			
1回目	ITリテラシーを習得し、試験に合格できる。	16回目	Excel1 基本的な表を作成することができる。
2回目	Word1 基本的な操作を覚える。	17回目	Excel2 グラフの作成をすることができる。表とグラフを印刷することができる。
3回目	Word2 基本的な操作を覚え、簡単な通知状を作成できる。	18回目	Excel3 基本的な関数を習得し、使えることができる。
4回目	Word3 表を作成できる。	19回目	Excelで表とグラフを作成することができる(中間試験)
5回目	Word4 画像、図形などの挿入や操作方法を覚え、視覚的な書類を作成できる。	20回目	ホームページ制作1 ホームページの概要がわかる。
6回目	Wordで図形や画像の入った文書を作成することができる(中間試験)	21回目	ホームページ制作2 Webでホームページを作成する操作方法がわかる。
7回目	PowerPoint1 プレゼンのストーリーの作り方やスライド作成ができる。	22回目	ホームページ制作3 Webでホームページを作成する操作方法がわかる。
8回目	PowerPoint2 スライド作成ができる。	23回目	ホームページ制作4 Webでホームページを作成する操作方法がわかる。
9回目	PowerPoint3 作成したスライドにアニメーションなどの動きを入れることができる。	24回目	ホームページ制作5 Webでホームページを作成する操作方法がわかる。
10回目	PowerPoint4 グループ発表のプレゼンテーションを作成できる。	25回目	ホームページ制作6 ホームページ課題を制作することができる。
11回目	PowerPoint5 グループ発表のプレゼンテーションを作成できる。	26回目	ホームページ制作7 ホームページ課題を制作することができる。
12回目	PowerPoint6 グループ発表のプレゼンテーションを作成できる。	27回目	ホームページ制作8 ホームページ課題を制作することができる。
13回目	PowerPoint7 グループ発表のプレゼンテーションを作成できる。	28回目	ホームページ制作9 ホームページ課題を制作することができる。
14回目	PowerPoint8 作成したスライドを用いて、グループプレゼン発表ができる。(期末試験)	29回目	ホームページ制作10 ホームページ課題を完成することができる。
15回目	PowerPoint9 グループプレゼンの講評を行い、プレゼンを行う機会に役に立てることができる。	30回目	ホームページ制作11 クラス全員のホームページを見て自分の作成したホームページとの違いを理解することができる。
準備学習 時間外学習	○タイピング練習 タイピング練習は自主的に1日10分でいいので行ってください。タイピングが速くなると、入力が楽になり、編集作業が速くなります。 ○Word 基本的な操作を習得するためには、講義の復習が必要です。 ○Excel 基本的な操作を習得するためには、講義の復習が必要です。 ○PowerPoint 発表用のスライドを完成させるためには授業時間だけでは不足します。時間外もスライドの作成をしてください。 ○ホームページ制作 課題を完成させるためには授業時間だけでは不足します。時間外もホームページの作成をしてください。		
評価方法	1. 定期試験(80%) 2. 小テスト(20%) 3. レポート(0%) 4. 課題成果(0%) 5. 実地試験(0%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	○Word、Excelは中間テストとして定期テストに組み込む。 ○PowerPointは定期テストにてグループプレゼンで評価を行う。 ○ホームページ制作は定期テストを課題提出として評価を行う。 ○出席状況、授業態度なども含めて総合評価とする。
受講生への メッセージ	情報社会学では、Word、Excel、PowerPointの基本的な操作方法とホームページ制作の概要を中心に授業を進めます。「パソコンは嫌い」という人の大半は過去の「できない」経験をそのまま引きずっていることが多いです。しかし、パソコンは便利な道具です。その便利さをこの授業を通して少しでも理解してもらいたいと思っています。既に基本操作は知っている人は復習を行うと考えてもらえればと思います。		
【使用教科書・教材・参考書】 ○テキスト 30時間でマスター Word&Excel2021、30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2021(実教出版)・プリント ○データ保存のための記録媒体 USBフラッシュメモリ ○ノート、筆記用具			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション論 (Communication Theory)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	古川 実里
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間 I 部			(単位)	1	曜日・時限	月曜 3・4限

【授業の学習内容】

「コミュニケーションとは何だろう?」という疑問から出発し、以下のようなテーマに沿って授業を行う。

①適切な会話のためのスキルの習得、②程よい自己主張の仕方の実技、③感情のコントロールの仕方の習得、④社会で必要とされるマナーに関する知識の習得、など。

適宜、コミュニケーションワークなどを取り入れるため、積極的に参加することが望ましい。

※実務者経験…2018年～2021年在籍する大学併設カウンセリングセンター、2021年～現在 教育相談センターにてカウンセリング業務に従事。

【到達目標】

医療人・社会人として求められる様々なコミュニケーションスキルを習得し、患者や他職種を含む医療スタッフ等働く上で関わりを持つ人々に対して適切な会話ややりとりが行えるようになること。

授業計画・内容

1回目	コミュニケーションの定義と会話のプロセスについて理解できる。
2回目	適切な話し方と聴き方～傾聴のスキルを中心に～について理解できる。
3回目	自己表現① ～挨拶の基本～について理解できる。
4回目	自己表現② ～アサーション～について理解できる。
5回目	自己表現③ ～感情のコントロール～について理解できる。
6回目	社会的マナー① ～敬語表現～について理解できる。
7回目	社会的マナー② ～電話対応と接客～について理解できる。
8回目	サービスマインドについて理解できる。

準備学習
時間外学習

予習: 授業はテキストに沿って行うため、あらかじめテキストに目を通しておくこと。
復習: 毎回課題として、その授業回で取り扱った内容に関する問題を記載したプリントを配布する。次回授業までに必ず問題を解いておくこと。尚、課題は翌授業時に提出とする。

評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	コミュニケーションスキルアップ検定: 60% 平常点 (出席・授業態度・課題提出を含む): 40%
------	---	--	--

受講生への
メッセージ

対人援助職を目指すみなさんにとって、「患者さんといかに信頼関係を築くか」ということはとても大切な問題です。この授業では、医療人として、そして、社会人として求められる様々なコミュニケーション上の技術を学びます。難しく考えすぎずに、日ごろの自分のコミュニケーションのあり方を振り返りながら楽しく学習していきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

テキスト: 『コミュニケーションスキルアップ検定』(滋慶教育科学研究所)

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	解剖学 I (Anatomy I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	岸本 優介
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区 分	前 期
コース	I 部			(単位)	1	曜日・時限	月曜日・2限

【授業の学習内容】

鍼灸施術において必要、かつ、医学の基礎となる解剖学の主に運動器について学習を行う。骨の構造やその部位の名称、筋肉の起止・停止・作用、神経の名称や走行と機能を理解すべく図やプリントを用いて理解を深めていく。各单元ごとに小テストを実施し、理解の到達度の確認をおこない、自己評価をする。
実務者経験：大学院(鍼灸学博士前期(修士)課程修了)大学院では、整形外科分野における臨床鍼灸学を専攻し、臨床・研究を行っていた。また、大学病院内(外来・病棟)での鍼灸施術および運動機能特化型デイサービスでの機能訓練指導などの臨床に関わる。

【到達目標】

鍼灸臨床において患者の体表や触診は、治療部位の決定やリスク管理をする上で重要である。この科目では、身体の解剖学的(骨・筋肉・神経)を理解し、鍼灸臨床をするための知識を得ることを目的とする。運動器を理解することで、治療学や臨床医学の理解を深める基礎を培う。

授業計画・内容

1回目	人体の方向・脊柱の構造について理解できる。※オリエンテーションも含む		
2回目	脊柱の骨格構造が理解できる①		
3回目	脊柱の骨格構造が理解できる②		
4回目	脊柱の骨格構造が理解できる③		
5回目	体幹の筋・運動・神経が理解できる①		
6回目	体幹の筋・運動・神経が理解できる②		
7回目	体幹の筋・運動・神経が理解できる③		
8回目	体幹のまとめ		
9回目	上肢の骨格構造が理解できる①		
10回目	上肢の骨格構造が理解できる②		
11回目	上肢の骨格構造が理解できる③		
12回目	上肢の筋・運動・神経が理解できる①		
13回目	上肢の筋・運動・神経が理解できる②		
14回目	上肢の筋・運動・神経が理解できる③		
15回目	上肢のまとめと総復習		
準備学習 時間外学習	覚える量が非常に多く、聞きなれない言葉や見慣れない漢字などもあるため、毎回の復習と小テストの準備や見直しなどがとても重要になります。具体的には書きに示します。 ①筋の学習では、骨の各部位の名称について復習が必要です。 ②神経の学習では、骨の各部位の名称と筋の走行について復習が必要です。		
評価方法	1. 定期試験 (80%) 2. 平常点(20%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 E 不合格	①期末試験は筆記試験を行う(80%)。 ②平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・小テスト・提出物・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ③成績は①+②の合計が59点未満の際は再試験を行う。
受講生への メッセージ	解剖学は医学の基礎として位置付けられています。鍼灸師のみならず、他職種分野との共通言語となります。骨の部位・名称や筋肉の起始・停止・作用・支配神経などは治療部位の決定、リスク管理をする上でとても重要な知識であるため、日々の授業や自主学習を大切にしてください。		

【使用教科書・教材・参考書】

※配布資料を中心に授業を行います。
※電子書籍：解剖学 第2版(医歯薬出版株式会社)

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	解剖学 I (Anatomy I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	岸本 優介
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区 分	後 期
コース	I 部					曜日・時限	月曜日・2限

【授業の学習内容】

鍼灸施術において必要、かつ、医学の基礎となる解剖学の主に運動器について学習を行う。骨の構造やその部位の名称、筋肉の起止・停止・作用、神経の名称や走行と機能を理解すべく図やプリントを用いて理解を深めていく。各单元ごとに小テストを実施し、理解の到達度の確認をおこない、自己評価をする。
実務者経験:大学院(鍼灸学博士前期(修士)課程修了)大学院では、整形外科分野における臨床鍼灸学を専攻し、臨床・研究を行っていた。また、大学病院内(外来・病棟)での鍼灸施術および運動機能特化型デイサービスでの機能訓練指導などの臨床に関わる。

【到達目標】

鍼灸臨床において患者の体表や触診は、治療部位の決定やリスク管理をする上で重要である。この科目では、身体の解剖学的(骨・筋肉・神経)を理解し、鍼灸臨床をするための知識を得ることを目的とする。運動器を理解することで、治療学や臨床医学の理解を深める基礎を培う。

授業計画・内容

1回目	下肢の骨格構造が理解できる①
2回目	下肢の骨格構造が理解できる②
3回目	下肢の骨格構造が理解できる③
4回目	下肢の筋・運動・神経が理解できる①
5回目	下肢の筋・運動・神経が理解できる②
6回目	下肢の筋・運動・神経が理解できる③
7回目	下肢のまとめ
8回目	頭蓋骨の骨格構造が理解できる①
9回目	頭蓋骨の骨格構造が理解できる②
10回目	頭蓋骨の骨格構造が理解できる③
11回目	頭蓋・頭頸部の筋・運動・神経が理解できる①
12回目	頭蓋・頭頸部の筋・運動・神経が理解できる②
13回目	頭蓋・頭頸部の筋・運動・神経が理解できる③
14回目	頭蓋・頭頸部のまとめ
15回目	総復習

準備学習
時間外学習
覚える量が非常に多く、聞きなれない言葉や見慣れない漢字などもあるため、毎回の復習と小テストの準備や見直しなどがとても重要になります。具体的には書きに示します。
①筋の学習では、骨の各部位の名称について復習が必要です。
②神経の学習では、骨の各部位の名称と筋の走行について復習が必要です。

評価方法	1. 定期試験 (80%) 2. 平常点 (20%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 E(不合格)	①期末試験は筆記試験を行う(80%)。 ②平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・小テスト・提出物・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ③成績は①+②の合計が59点未満の際は再試験を行う。
------	-------------------------------	--	---

受講生への
メッセージ
解剖学は医学の基礎として位置付けられています。鍼灸師のみならず、他職種分野との共通言語となります。骨の部位・名称や筋肉の起始・停止・作用・支配神経などは治療部位の決定、リスク管理をする上でとても重要な知識であるため、日々の授業や自主学習を大切にしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

※配布資料を中心に授業を行います。
※電子書籍:解剖学 第2版(医歯薬出版株式会社)

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	解剖学Ⅱ (AnatomyⅡ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	遠藤 久子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	前期・後期
コース	I 部			(単位)	2	曜日・時限	月曜3限・木3限

【授業の学習内容】

医療について学んでいくうえで、最も基本となる人体の構造と機能のうち、構造にかかわる部分を主に学び、私たちのからだにはどこに、どのような器官があるのかを理解することにより2年生で学ぶ病気や障害についての理解を深める。单元ごとに小テストを実施し、理解の到達度の確認をおこない、自己評価をする。

実務経験：鍼灸教員養成課程修了

【到達目標】

循環器系、呼吸器系、神経系の構造や機能について名称や構造上の特徴を理解することができることを目標とする。主に内臓器に焦点をあて、その特徴や機能を理解することで、治療学や臨床医学の理解を深める基礎を培う。

授業計画・内容

1回目	解剖学の基礎 第1章 人体の構成	16回目	第4章 消化器系①消化器の概要および消化管の基本構造について理解できる
2回目	第2章 循環器系①血管系の概要、心臓の構造について理解できる。	17回目	第4章 消化器系②口腔・咽頭の構造について理解できる
3回目	第2章 循環器系②動脈系、静脈系の構造について理解できる。	18回目	第4章 消化器系③食道・胃の位置と構造について理解できる
4回目	第2章 循環器系③動脈系、静脈系の走行と名称について理解できる。	19回目	第4章 消化器系④小腸・大腸の位置と構造について理解できる
5回目	第2章 循環器系④動脈系、静脈系の走行と名称について理解できる。	20回目	第4章 消化器系⑤肝臓・胆嚢・膵臓の位置と構造について理解できる
6回目	第2章 循環器系⑤動脈系、静脈系の走行と名称について理解できる。	21回目	第4章 消化器系⑥消化器系の復習
7回目	第2章 循環器系⑥動脈系、静脈系の走行と名称について理解できる。	22回目	第8章 神経系①神経系の概要について理解できる
8回目	第2章 循環器系⑦動脈系、静脈系の走行と名称について理解できる。	23回目	第8章 神経系②脳幹の位置と構造について理解できる
9回目	第2章 循環器系⑧胎児循環の経路と名称変化について理解できる	24回目	第8章 神経系③小脳・間脳の位置と構造について理解できる
10回目	第2章 循環器系⑨リンパ系の全体像と構造について理解できる	25回目	第8章 神経系④大脳の位置と構造について理解できる①
11回目	第2章 循環器系⑩リンパ系器官の構造について理解できる	26回目	第8章 神経系⑤大脳の位置と構造について理解できる②
12回目	第2章 循環器系⑪循環器系の復習	27回目	第8章 神経系⑥伝導路について理解できる
13回目	第3章 呼吸器系① 呼吸器系の概要、鼻腔～喉頭の位置と構造について理解できる	28回目	第8章 神経系⑦末梢神経系の種類と走行について理解できる①
14回目	第3章 呼吸器系② 気管・気管支・肺の位置と構造について理解できる	29回目	第8章 神経系⑧末梢神経系の種類と走行について理解できる②
15回目	第3章 呼吸器系③ 呼吸器系の復習	30回目	神経系の復習

準備学習 時間外学習	各臓器の構造について機能学(生理学)と合わせ復習する必要がある。 ①各单元を事前に読みわからないことは調べておく。 ②勉強した单元を再度読み、情報を整理し知識の定着に努める。 ③テレビ、映画、小説、漫画、アニメなど医療に関係するような番組、作品を見るように心がける。		
---------------	--	--	--

評価方法	1. 定期試験(80%) 2. 小テスト(20%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験と各章が終わった時に小テストを行う。定期試験80点＋小テスト20点で学期末の評価とする。 学期末の評価で60点を超えないものには再試験を行う。その場合、再試験の成績を評価の対象とし、60点を超えても最終評価は60点となる。
------	--	--	--

受講生への メッセージ	解剖学は基礎医学として医学を学ぶ人は必ず勉強します。解剖学、生理学は正常なヒトの体について学ぶ学問ですすべての医学の知識の土台となる学問なのでしっかりと身に付けられるよう頑張りましょう。		
----------------	---	--	--

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：解剖学 第2版(医歯薬出版株式会社)、カラー人体解剖学(西村書店)
解剖学トレーニングノート 第7版(医学教育出版社)

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	生理学 I Physiology I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋 菜摘
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	前期
コース	昼間 I 部			(単位)	2	曜日・時限	月1限 木2限
【授業の学習内容】							
生理学は人体の働きとその仕組みを探究する学問で、医学の基礎的分野を担う。 人体の構造や機能、機序をきちんと理解しなければ、生体機能の異常である「疾患」を理解できない。本講義では臓器・組織ごとの生理現象とメカニズムを学習し、鍼灸師が臨床現場で遭遇するであろう疾患などに関連付けながら講義を進めていく。 ※実務経験：鍼灸教員養成課程修了							
【到達目標】							
正常な人体の機能学について、各臓器や組織の主たる機能や構造を理解・説明することができる。 ① 細胞や組織の基本的な機能について説明できる。 ② 人体を構成する器官系の構造と機能を説明できる。 ③ 各器官とその他の器官系との繋がりや関係性について理解・説明できる。							

授業計画・内容			
1回目	生理機能の特徴、細胞の構造と機能について理解でき	16回目	消化器系の構造と機能について理解できる
2回目	物質の代謝や移動、体液について理解できる	17回目	消化酵素の種類とその働きについて理解できる
3回目	血液の組成と働きについて理解できる	18回目	消化管運動について理解できる①
4回目	止血・線維素溶解について理解できる	19回目	消化管運動について理解できる②
5回目	心臓の構造と働きについて理解できる①	20回目	消化液の働きと消化管ホルモンについて理解できる①
6回目	心臓の構造と働きについて理解できる②	21回目	消化液の働きと消化管ホルモンについて理解できる②
7回目	血液循環について理解できる	22回目	吸収の機序について理解できる①
8回目	循環調節について理解できる	23回目	吸収の機序について理解できる②
9回目	リンパ系の構造と機能について理解できる	24回目	肝臓の機能について理解できる
10回目	生体防御機構について理解できる①	25回目	栄養素と代謝について理解できる
11回目	生体防御機構について理解できる②	26回目	各栄養素の働きと代謝について理解できる①
12回目	呼吸器系の構造と機能について理解できる	27回目	各栄養素の働きと代謝について理解できる②
13回目	換気とガス交換について理解できる	28回目	体温調節について理解できる
14回目	呼吸運動とその調節について理解できる①	29回目	体熱の産生と放散について理解できる
15回目	呼吸運動とその調節について理解できる②	30回目	発汗とその調節、体温調節障害について理解できる
準備学習 時間外学習	各器官の構造(形態学)と併せた学習が必要。 ①医学的専門用語が多いため、常に分からないことを調べる習慣をつける。 ②毎授業時に行う練習問題で、知識の定着を行う。		
評価方法	1. 定期試験(70%) 2. 小テスト(15%) 3. 課題成果(15%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	学期の中で中間試験と期末試験を実施する。 本試験は100点満点で実施し、70点換算する。 小テスト関連15点分、課題提出15点分で総合的に評価する。
受講生への メッセージ	日常的に自分の身体で起きている生命徴候は、基礎医学を学習することで理解・説明することができます。 生理学の授業は1年生で完結するものではなく、今後学ぶ事柄に繋がってきます。 できるだけ皆さんがイメージが出来るように、反復した学習により知識が定着できるように進めていきます。 疑問に感じたことは聞いてください。皆さんと一緒に考えていきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：生理学 第3版(医歯薬出版株式会社) 参考書：生理学トレーニングノート(医学教育出版社)、生理学インパクト(医道の日本社)			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	生理学Ⅱ Physiology Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋 菜摘
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	後期
コース	昼間 I 部			(単位)	2	曜日・時限	木3限 金2限
【授業の学習内容】 生理学は人体の働きとその仕組みを探究する学問で、医学の基礎的分野を担う。 人体の構造や機能、機序をきちんと理解しなければ、生体機能の異常である「疾患」を理解できない。本講義では臓器・組織ごとの生理現象とメカニズムを学習し、鍼灸師が臨床現場で遭遇するであろう疾患などに関連付けながら講義を進めていく。 ※実務経験：鍼灸教員養成課程修了							
【到達目標】 正常な人体の機能学について、各臓器や組織の主たる機能や構造を理解・説明することができる。 ① 細胞や組織の基本的な機能について説明できる。 ② 人体を構成する器官系の構造と機能を説明できる。 ③ 各器官とその他の器官系との繋がりや関係性について理解・説明できる。							

授業計画・内容			
1回目	内分泌の性質と作用機序について理解できる	16回目	末梢神経系の分類と機能について理解できる①
2回目	視床下部と下垂体に関わるホルモンを理解できる	17回目	末梢神経系の分類と機能について理解できる②
3回目	甲状腺・副甲状腺に関わるホルモンを理解できる	18回目	自律神経の概要が理解できる
4回目	膵臓・副腎に関わるホルモンを理解できる	19回目	自律神経調節や反射について理解できる①
5回目	生殖器官系と他の器官に関わるホルモンを理解できる	20回目	自律神経調節や反射について理解できる②
6回目	ニューロンの構造と働きについて理解できる	21回目	骨格筋の構造と働きについて理解できる
7回目	神経線維の興奮伝導について理解できる	22回目	筋収縮の仕組みについて理解できる
8回目	シナプス伝達について理解できる	23回目	筋のエネルギー供給の仕組みを理解できる
9回目	中枢神経系の分類と機能について理解できる	24回目	心筋と平滑筋の特徴について理解できる
10回目	反射の特徴と機能について理解できる	25回目	骨格筋の運動支配について理解できる①
11回目	脊髄の構造と働きについて理解できる	26回目	骨格筋の運動支配について理解できる②
12回目	脳幹と小脳の構造と働きについて理解できる	27回目	運動の調節について理解できる①
13回目	視床と視床下部の構造と働きについて理解できる	28回目	運動の調節について理解できる②
14回目	大脳の構造と働きについて理解できる①	29回目	錐体路と錐体外路について理解できる
15回目	大脳の構造と働きについて理解できる②	30回目	発声と発語について理解できる
準備学習 時間外学習	各器官の構造(形態学)と併せた学習が必要。 ①医学的専門用語が多いため、常に分からないことを調べる習慣をつける。 ②毎授業時に行う練習問題で、知識の定着を行う。		
評価方法	1. 定期試験(70%) 2. 小テスト(15%) 3. 課題成果(15%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	学期の中で中間試験と期末試験を実施する。 本試験は100点満点で実施し、70点換算する。 小テスト関連15点分、課題提出15点分で総合的に評価する。
受講生への メッセージ	日常的に自分の身体で起きている生命徴候は、基礎医学を学習することで理解・説明することができます。 生理学の授業は1年生で完結するものではなく、今後学ぶ事柄に繋がってきます。 できるだけ皆さんがイメージが出来るように、反復した学習により知識が定着できるように進めていきます。 疑問に感じたことは聞いてください。皆さんと一緒に考えていきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：生理学 第3版(医歯薬出版株式会社) 参考書：生理学トレーニングノート(医学教育出版社)、生理学インパクト(医道の日本社)			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	解剖生理学 I (Anatomical Physiology I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋菜摘・遠藤 久子
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間 I 部			(単位)	2	曜日・時限	火曜1限・木曜3限
【授業の学習内容】							
人体の構造と機能について学び、臨床において必要となる疾病の病態生理を理解するのに役立てることができる。 解剖学、生理学のそれぞれの学問の観点から基礎医学の知識を身につける。							
実務経験:鍼灸教員養成課程修了							
【到達目標】							
循環器系、呼吸器系、神経系の構造や機能について名称や構造上の特徴を理解することができることを目標とする。主に内臓器に 焦点をあて、その特徴や機能を理解することで、治療学や臨床医学の理解を深める基礎を培う。							

授業計画・内容			
1回目	解剖学・生理学の確認テストを行い、苦手分野を見つける。	16回目	内分泌系の概要 器官系、階層支配、フィードバックなど
2回目	腎臓の働きについて理解できる。	17回目	視床下部ホルモンの名称と働きを理解できる。
3回目	尿生成について理解できる。	18回目	下垂体①下垂体の構造と機能について理解できる。
4回目	体液調節について理解できる。	19回目	下垂体②下垂体ホルモンの名前と働きを理解できる。
5回目	蓄尿・排尿について理解できる。	20回目	松果体 松果体の構造と機能について理解できる。
6回目	生殖器の構造について理解できる。	21回目	甲状腺 甲状腺の構造と機能について理解できる。
7回目	男性生殖器について理解できる。	22回目	副腎① 副腎の構造と機能について理解できる。
8回目	女性生殖器について理解できる。	23回目	副腎② 副腎皮質ホルモンの名称と働きを理解できる。
9回目	受精と発生について理解できる。	24回目	副腎③ 副腎髄質ホルモンの名称と働きを理解できる。
10回目	成長と老化について理解できる。	25回目	復習①
11回目	痛覚について理解できる。	26回目	膵臓② 膵臓ホルモンの名称と働きを理解できる。
12回目	聴覚・平衡感覚について理解できる。	27回目	復習②
13回目	味覚・嗅覚について理解できる。	28回目	性腺① 性腺の構造と働きについて理解できる。
14回目	視覚について理解できる。	29回目	性腺② 性腺ホルモンの名称と働きを理解できる。
15回目	まとめと復習	30回目	まとめと復習
準備学習 時間外学習	各臓器の構造について機能学(生理学)と合わせ復習する必要がある。 ①各単元を事前に読みわからないことは調べておく。 ②勉強した単元を再度読み、情報を整理し知識の定着に努める。 ③テレビ、映画、小説、漫画、アニメなど医療に関係するような番組、作品を見るように心がける。		
評価方法	1. 定期試験(80%) 2. 小テスト・課題成果(20%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験と各章が終わった時に小テストを行う。定期試験は100点満点で行いその80%＋小テスト評価20%＝100%で学期末の評価とする。 学期末の評価で60点を超えないものには再試験を行う。その場合、再試験の成績を評価の対象とし、最終評価は60点となる。
受講生への メッセージ	前期で学んだ解剖・生理学の知識は定着していますか。この学問は人体の構造と機能の生理的な状態を学びます。 疾患について学ぶ2年次科目へ繋げていくことも大切です。まずは、実際にみなさんのからだで機能しているものだと思いながら学びましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:解剖学 第2版(医歯薬出版株式会社)、生理学(医歯薬出版株式会社)、カラー人体解剖学(西村書店) 解剖学トレーニングノート 第7版(医学教育出版社)			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	衛生学・公衆衛生学 (Public Health)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋 菜摘
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間	60	開講区分	前期・後期
コース	昼間 I 部			(単位)	2	曜日・時限	金曜 1限
【授業の学習内容】 医療従事者として疾病予防と健康の保持・増進に必要な概念を幅広く習得する。 医療行政の仕組みとその根拠法についての知識を習得する。 ※実務経験 鍼灸教員養成課程修了。							
【到達目標】 衛生学・公衆衛生学で学ぶ内容を身近なものとし、自ら調べ、説明できるようになる。 衛生学・公衆衛生学の歴史を振り返り、疾病予防、健康の保持増進、健康管理、産業保健などの諸問題から環境と生活の健康を考え、衛生的な環境づくりについて習得する。							

授業計画・内容			
1回目	第1章「公衆衛生学の意義」について理解できる①	16回目	第8章「成人・高齢者保健」について理解できる①
2回目	第1章「公衆衛生学の意義」について理解できる②	17回目	第8章「成人・高齢者保健」について理解できる②
3回目	第2章「健康」について理解できる①	18回目	第9章「感染症とその対策」について理解できる①
4回目	第2章「健康」について理解できる②	19回目	第9章「感染症とその対策」について理解できる②
5回目	第3章「ライフスタイルと健康」について理解できる	20回目	第9章「感染症とその対策」について理解できる③
6回目	第3章「ライフスタイルと健康」について理解できる	21回目	第9章「感染症とその対策」について理解できる④
7回目	第3章「ライフスタイルと健康」について理解できる	22回目	第10章「消毒法」について理解できる①
8回目	第4章「環境と健康」について理解できる①	23回目	第10章「消毒法」について理解できる②
9回目	第4章「環境と健康」について理解できる②	24回目	第10章「消毒法」について理解できる③
10回目	第5章「産業保健」について理解できる①	25回目	第11章「疫学」について理解できる①
11回目	第5章「産業保健」について理解できる②	26回目	第11章「疫学」について理解できる②
12回目	第6章「精神保健」について理解できる①	27回目	第12章「保健統計」について理解できる①
13回目	第6章「精神保健」について理解できる②	28回目	第12章「保健統計」について理解できる②
14回目	第7章「母子保健」について理解できる①	29回目	第12章「保健統計」について理解できる③
15回目	第7章「母子保健」について理解できる②	30回目	第12章「保健統計」について理解できる④
準備学習 時間外学習	健康、環境、人口統計、疾病統計などの情報について目を向け、想像する。		
評価方法	1. 定期試験(70%) 2. 小テスト(15%) 3. 課題成果(15%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	本試験は100点満点で実施し、70点換算する。 小テスト関連15点分、課題成果15点分で総合的に評価する。
受講生への メッセージ	衛生学は「生を衛る」学問だと言われています。 生まれて亡くなる。健康に生きるために衣食住をする。病気にならないように予防をする…… この科目で学ぶ内容は、実は生涯、皆さんの身近にあふれていることばかりです。 一緒に楽しんで学びましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 東洋療法学校協会編:衛生学・公衆衛生学(医歯薬出版株式会社) 公衆衛生がみえる(メデックメディア)、厚生労働省HP、国立感染症研究所HP 配布資料			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	医療概論 (Medicine Introduction)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	中里 亮太
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
コース	I 部					曜日・時限	金曜日 3限
【授業の学習内容】							
医療従事者としての倫理観、医療の歴史から現代の医療制度までを理解することを目的とする。医療の現場では、一般社会以上に倫理観が求められ、また、法的規制も多くあり法を遵守する心の在りようから学ぶ必要がある。医療に関する社会の制度を知ることも重要な点であるとともに、そのような制度が構築されてきた歴史的な背景を知ることによって医療人としての素養を育てることになる。「倫理とは何か」というテーマからの入り口として、普段の生活におけるコミュニケーションの方法を見直し、普段より起こっている生活での問題点や社会的問題を解決してきた先人の知恵や医学の歴史について学ぶ。 実務経験：鍼灸教員養成課程修了（鍼灸学校の附属鍼灸院にて2年間・教員養成校在学中、鍼灸接骨院にて2年間従事。）							
【到達目標】							
医療人としての適切な倫理観と社会における医療の役割を総合的に理解する。倫理に関する基礎知識を理解し、そのうえで医療者の在るべき倫理観を学ぶ。医療上の問題点をどのように解釈していくかの方向性を理解する。医学史を学ぶことで、現在の医療の成り立ちを理解し、更には今後の変化に対応する考え方を構築する考え方を獲得する。							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション・医療概論の意義について理解することができる。		
2回目	チーム医療における医師・看護師・鍼灸師などの役割について理解することができる。		
3回目	医学史(古代・中世・ルネッサンス期の西洋史)について知り、理解することができる。		
4回目	医学史(近代・現代の西洋史)について知り、理解することができる。		
5回目	医学史(中国史)について知り、理解することができる。		
6回目	医学史(日本史)について知り、理解することができる。		
7回目	日本の医療制度(健康保険、診療報酬)や他国との比較について理解することができる。		
8回目	患者との接し方、共感的傾聴、医療面接など施術者としての倫理観について理解することができる。		
9回目	患者との良好な関係性を保つための手段として、患者に対する説明責任の重要性を理解することができる。		
10回目	高齢化社会と医療、尊厳死・安楽死、ホスピスケアなどについて理解し倫理観を深める。		
11回目	患者の価値観を尊重する医療、QOL(生活の質)について理解することができる。		
12回目	少子高齢化と医療、医療費の問題、今後の医療の展望について知見を広げることができる。		
13回目	現代科学の進歩に伴って生じてくる、新たな生命倫理の存在を理解することができる。		
14回目	これまでの学びの振り返り、グループディスカッション①		
15回目	これまでの学びの振り返り、グループディスカッション②		
準備学習 時間外学習	本講義では、医療の基礎知識を深めるために以下の学習を推奨します。 ① 準備学習(事前学習):医療関連のニュースや時事問題に目を向け、社会と医療の関わりを意識する。 ② 時間外学習(事後学習):授業内容を復習し、専門用語や重要な概念を整理する。 授業で取り上げた医療制度や事例について、自分なりの考えをまとめる。 必要に応じて、関連書籍や論文を調べ、理解を深める。		
評価方法	・平常点(20%) ・期末試験(筆記)(80%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	① 平常点は欠席・遅刻・早退・提出物の期限・授業態度を含む ② 期末試験は筆記試験を行う。 ③ 成績は①+②の合計とする。
受講生への メッセージ	医療は単なる技術ではなく、「人を支える学問」です。本講義では、医療の歴史や倫理、制度、そして現代医療の課題について学びます。医療の本質を理解し、医療従事者としての視点を養うことが目的です。この講義を通じて、医療に携わる者としての「責任」と「やりがい」を感じながら、患者さんに寄り添う姿勢を身につけてください。皆さんが学ぶ知識や考え方が、未来の医療の現場で活かされることを期待しています。		
【使用教科書・教材・参考書】			
基本的に配布資料を使用します。別途で準備物が必要な場合は予めお伝えします。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	東洋医学概論 I (Oriental Medicine Introduction I)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	伊藤昌幸
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分	前期・後期
コース	I 部					曜日・時限	金曜2限
【授業の学習内容】							
東洋医学(中医学)を実践していくために必要な考え方・知識を理解する。 『東洋医学臨床論』の講義で扱う種々の病証について、発生病序および治療についての理解が容易になるようにする。 実務者経験・教員養成終了。個人宅、介護施設などへの往診治療中心の治療院を開業し臨床に携わる。							
【到達目標】							
①東洋医学の生理観を理解できる。 ②生理物質・臓腑の関連性を理解できる。 ③生理物質・臓腑にどのような関連性があるのか理解できる。 ④知識・概念の習得に留まらず、臨床に活かせるようにできる。							

授業計画・内容				
1回目	東洋医学の理論について理解できる。		16回目	脾の生理・特性を理解できる。
2回目	陰陽・生理物質・精について理解できる。		17回目	脾の病態を理解できる。
3回目	気の種類について理解できる。①		18回目	肺の生理・特性を理解できる。①
4回目	気の種類について理解できる。②		19回目	肺の生理・特性を理解できる。②
5回目	気の病態について理解できる。		20回目	腎の生理・特性を理解できる。
6回目	血・津液について理解できる。		21回目	腎の病態を理解できる。①
7回目	血の病態について理解できる。		22回目	腎の病態を理解できる。②
8回目	津液の病態について理解できる。		23回目	五臓の相互関係を理解できる。①
9回目	陰陽の生理・病態について理解できる。		24回目	五臓の相互関係を理解できる。②
10回目	臓腑の概要について理解できる。		25回目	外感病因について理解できる。①
11回目	肝の生理・特性を理解できる。		26回目	外感病因について理解できる。②
12回目	肝の病態について理解できる。		27回目	外感病因について理解できる。③
13回目	心の生理・特性を理解できる。		28回目	内傷病因について理解できる。①
14回目	心の病態について理解できる。		29回目	内傷病因について理解できる。②
15回目	まとめ		30回目	まとめ
準備学習 時間外学習	復習をお願いします。			
評価方法	・平常点(20%) ・期末試験(筆記)(80%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	①平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・提出物の期限・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ②期末試験は筆記試験を行う。 ③成績は①+②の合計とする。	
受講生への メッセージ	初めて学ぶ学問という人が殆どだと思います。何千年も受け継がれ経験によって発展してきたものなので、現代の血液検査などのように、数値で判断するのではなく、自分の感覚や患者からの情報を自ら収集・分析して治療を行っていきます。聞いたことのないような単語がたくさん出てきますが、まずは拒否することなく、受け入れてください。			
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:東洋療法学校協会編:「新版東洋医学概論」、医道の日本社 配布資料				

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	経絡経穴概論 I (Outline of the Meridians Acupuncture Points I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中里 亮太
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 3	開講区分	通 年(前期)
コース	昼間 I 部					曜日・時限	火曜日・2限

【授業の学習内容】

鍼灸治療にとって最も重要な概念である体内をめぐる気の通り道である経絡を学びその経路上に存在する経穴の特性を理解することで、治療をするための方法を身につける。鍼灸治療の基本となる、経絡の走行の理解、経穴の概念に関する知識を理解する。十四の経絡の人体における走行をするために、体表における走行経路や臓腑に関わる経路を学ぶ。更に、経絡上にある経穴の存在を確認していく。

実務経験：鍼灸教員養成課程修了（鍼灸学校の附属鍼灸院にて2年間・教員養成校在学中、鍼灸接骨院にて2年間従事。）

【到達目標】

- ①経絡経穴の基本概念について説明ができる
- ②骨度法や古典解剖学について理解する
- ③経絡と経穴の正式名称を正しく読み書きができるようになる
- ④各経絡の基本的な知識を習得する
- ⑤各経穴の穴性を理解し、かつ正確な取穴部位を習得し臨床で活用するための基礎を獲得する

授業計画・内容			
1回目	経穴の概要を理解することができる	16回目	手の小陰心経の経穴の知識を習得できる
2回目	経穴の概要、要穴、骨度法について説明ができる	17回目	手の太陽小腸経の経穴の知識を習得できる
3回目	督脈の経穴の知識を習得できる	18回目	手の太陽小腸経の経穴の知識を習得できる
4回目	督脈の経穴の知識を習得できる	19回目	足の太陽膀胱経の経穴の知識を習得できる
5回目	任脈の経穴の知識を習得できる	20回目	足の太陽膀胱経の経穴の知識を習得できる
6回目	任脈の経穴の知識を習得できる	21回目	足の太陽膀胱経の経穴の知識を習得できる
7回目	手の太陰肺経の経穴の知識を習得できる	22回目	足の太陽膀胱経の経穴の知識を習得できる
8回目	手の陽明大腸経の経穴の知識を習得できる	23回目	まとめ
9回目	手の陽明大腸経の経穴の知識を習得できる		
10回目	1～9回目の授業を復習し説明することができる		
11回目	足の陽明胃経の経穴の知識を習得できる		
12回目	足の陽明胃経の経穴の知識を習得できる		
13回目	足の陽明胃経の経穴の知識を習得できる		
14回目	足の太陰脾経の経穴の知識を習得できる		
15回目	足の太陰脾経の経穴の知識を習得できる		
準備学習 時間外学習	暗記する事項がとても多い科目です。反復的な学習のため逐一小テストを行いますので必ず復習を行い東洋医学に親しみましょう。経絡経穴の部位を理解する上で現代医学的な解剖学の知識も必要ですので各自教科書等を参照して下さい。		
評価方法	・期末試験(筆記) (80%) ・平常点 (20%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	①期末試験は筆記試験を行う(80%)。 ②平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・小テスト・提出物・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ③成績は①＋②の合計が59点未満の際は再試験を行う。
受講生への メッセージ	おそらく皆さんの多くが今までに出会ったことのない学問でありゼロから覚えることが多い科目ですが、鍼灸師を志すからにはこの科目の理解は必須です。単なる丸暗記ではもったいない。想像力を豊かに東洋医学の楽しさに触れながらみんなで楽しく頑張りましょう！		
【使用教科書・教材・参考書】 ＊配布資料を中心に授業を行います。 ＊教科書：経絡経穴概論 東洋療法学校協会編			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	経絡経穴概論 I (Outline of the Meridians Acupuncture Points I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中里 亮太
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 3	開講区分	通 年 (後期)
コース	昼間 I 部					曜日・時限	

【授業の学習内容】

鍼灸治療にとって最も重要な概念である体内をめぐる気の通り道である経絡を学びその経路上に存在する経穴の特性を理解することで、治療をするための方法を身につける。鍼灸治療の基本となる、経絡の走行の理解、経穴の概念に関する知識を理解する。十四の経絡の人体における走行をするために、体表における走行経路や臓腑に関わる経路を学ぶ。更に、経絡上にある経穴の存在を確認していく。

実務経験：鍼灸教員養成課程修了（鍼灸学校の附属鍼灸院にて2年間・教員養成校在学中、鍼灸接骨院にて2年間従事。）

【到達目標】

- ①経絡経穴の基本概念について説明ができる
- ②骨度法や古典解剖学について理解する
- ③経絡と経穴の正式名称を正しく読み書きができるようになる
- ④各経絡の基本的な知識を習得する
- ⑤各経穴の穴性を理解し、かつ正確な取穴部位を習得し臨床で活用するための基礎を獲得する

授業計画・内容

1回目	足の少陰腎経の経穴①の知識を習得できる。	16回目	要穴①について知識を習得できる。
2回目	足の少陰腎経の経穴②の知識を習得できる。	17回目	要穴②について知識を習得できる。
3回目	足の少陰腎経の経穴③の知識を習得できる。	18回目	経絡経穴の現代的研究①についての知識を習得できる。
4回目	手の厥陰心包経の経穴の知識を習得できる。	19回目	経絡経穴の現代的研究②についての知識を習得できる。
5回目	手の少陽三焦経の経穴①の知識を習得できる。	20回目	上肢の経穴の取穴を習得できる。
6回目	手の少陽三焦経の経穴②の知識を習得できる。	21回目	下肢の経穴の取穴を習得できる。
7回目	手の少陽三焦経の経穴③の知識を習得できる。	22回目	体幹部の経穴の取穴を習得できる。
8回目	足の少陽胆経の経穴①の知識を習得できる。	23回目	後期のまとめ。
9回目	足の少陽胆経の経穴②の知識を習得できる。		
10回目	足の少陽胆経の経穴③の知識を習得できる。		
11回目	足の少陽胆経の経穴④の知識を習得できる。		
12回目	足の厥陰肝経の経穴の知識を習得できる。		
13回目	奇形八脈の知識を習得できる。		
14回目	奇穴①の知識を習得できる。		
15回目	奇穴②の知識を習得できる。		

準備学習
時間外学習
暗記する事項がとても多い科目です。反復的な学習のため逐一小テストを行いますので必ず復習を行い東洋医学に親しみましょう。経絡経穴の部位を理解する上で現代医学的な解剖学の知識も必要ですので各自教科書等を参照して下さい。

評価方法	・期末試験(筆記) (80%) ・平常点 (20%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	①期末試験は筆記試験を行う(80%)。 ②平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・小テスト・提出物・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ③成績は①+②の合計が59点未満の際は再試験を行う。
------	-------------------------------	--	---

受講生への
メッセージ
おそらく皆さんの多くが今までに出会ったことのない学問でありゼロから覚えることが多い科目ですが、鍼灸師を目指すからにはこの科目の理解は必須です。単なる丸暗記ではもったいない。想像力を豊かに東洋医学の楽しさに触れながらみんなで楽しく頑張りましょう！

【使用教科書・教材・参考書】

- * 配布資料を中心に授業を行います。
- * 教科書：経絡経穴概論 東洋療法学校協会編

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	はりきゅう理論Ⅰ (Acupuncture and Moxibustion TheoryⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	中里亮太
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	後 期(1月～)
コース	I 部					曜日・時限	火曜日 1・2限

【授業の学習内容】
鍼灸臨床における各手技の基本操作について学び本授業修了時には、各手技の期待される効果について説明できるようになる。 鍼灸臨床上の衛生操作。リスク管理について学び、その予防方法、対処方法について学び、本授業修了時には安心・安全な鍼灸臨床について説明できるようになる。 ※実務者経験 鍼灸科教員養成課程修了

【到達目標】
実技を通して学んだ内容を机上にて再確認を行い、鍼灸臨床で用いる器具、技術、衛生的処置を理解し、患者に対しより良い術式かつ安全な施術を行うことができる。 ＜具体的な目標＞ ①はりきゅうの各手技の方法・目的とする効果について説明することができる。 ②衛生操作の目的、方法について説明ができる。 ③鍼灸における医療過誤について説明でき、その対処方法について説明できる。 ④鍼灸の治効理論に関連した各種学説について説明することができる。

授業計画・内容			
1回目	第1章・第2章:鍼の基礎知識について理解できる。		
2回目	第3章刺鍼の方法と術式について理解できる。		
3回目	第4章:特殊鍼法について理解できる。		
4回目	第8章 鍼灸治効の基礎知識 1)運動系の調節 運動反射について理解できる		
5回目	第8章 鍼灸治効の基礎知識 2)内臓系の調節 自律神経調節について理解できる		
6回目	第8章 鍼灸治効の基礎知識 3)感覚 体性感覚について理解できる		
7回目	第8章 鍼灸治効の基礎知識 3)感覚 痛覚の特徴(分類・受容器など)について理解できる		
8回目	第8章 鍼灸治効の基礎知識 4)熱傷(炎症)について理解できる		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	この授業には、実技で学んだ衛生操作、各手技の理解が必要不可欠です。 目標①鍼灸治療における衛生操作について復習する必要がある。 目標②実技で行ったはり・きゅうの各手技について必ず復習する必要がある。		
評価方法	1. 定期試験(100%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	はり師・きゅう師として、鍼灸治療に必要とする器具や様々な手技について理解を深め、患者に合わせたオーダーメイドの治療ができる知識技術を身につけ患者にとって最もよい治療手技を選択できるようにしましょう。また、安心・安全な治療を行えるよう衛生面やリスク管理の知識を身に着けましょう。鍼灸治療の奥深さ・魅力をしっかりと楽しく学びましょう		
【使用教科書・教材・参考書】 適宜、必要と思われるもの。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	生体観察 (Biological Observation Science)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	岸本 優介
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区 分	前 期
コース	I 部					曜日・時限	金曜日・1限

【授業の学習内容】

生体観察とは、鍼灸臨床において患者の病態を把握する際に最も重要な能力である。鍼灸臨床において患者の体表や触診は、治療部位の決定やリスク管理をする上で重要である。この科目では、身体の形態(筋肉・骨・神経走行)を理解し、鍼灸臨床を行うための知識を得ることを目的とする。
実務者経験:大学院(鍼灸学博士前期(修士)課程修了)大学院では、整形外科分野における臨床鍼灸学を専攻し、臨床・研究を行っていた。また、大学病院内(外来・病棟)での鍼灸施術および運動機能特化型デイサービスでの機能訓練指導などの臨床に関わる。

【到達目標】

- ①身体の形態を理解し、鍼灸臨床を安全に行うための知識を身につける。
- ②各部位における骨指標や解剖学的構造を理解し、触診することができる。
- ③筋肉の起始・停止・作用・支配神経を理解し、触診することができる。

授業計画・内容			
1回目	人体の方向・脊柱の構造について理解できる。※オリエンテーションも含む		
2回目	脊柱の構造について理解し触診することができる。		
3回目	肩甲骨の構造について理解し触診することができる。		
4回目	上肢帯について理解し触診することができる。		
5回目	下肢の骨について理解し触診することができる。		
6回目	下肢帯の構造について理解し触診することができる。		
7回目	小テスト		
8回目	上肢の筋と神経について理解し触診することができる。		
9回目	上肢の筋と神経について理解し触診することができる。		
10回目	下肢の筋と神経について理解し触診することができる。		
11回目	下肢の筋と神経について理解し触診することができる。		
12回目	体幹の筋について理解し触診することができる。		
13回目	体幹の筋について理解し触診することができる。		
14回目	総復習①		
15回目	総復習②		
準備学習 時間外学習	人体の構造と機能に関して必ず復習をしてください。 骨指標や筋肉の起始・停止・作用・支配神経などを理解し、触診の練習を行うようにしてください。		
評価方法	1. 定期試験(80%) 2. 平常点(20%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 E不合格	①期末試験は実技試験を行う(80%)。 ②平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・小テスト・提出物・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ③成績は①+②の合計が59点未満の際は再試験を行う。
受講生への メッセージ	鍼灸臨床に必要な知識・触診技術の習得を目的としています。骨指標や筋肉の起始・停止・作用・支配神経などは経絡経穴学や治療部位の決定、リスク管理をする上でとても重要な知識・技術であるため、日々の授業や自主学習を大切にしてください。また、授業態度が著しく不良であると指導教員が判断した場合には、別室にての学習を行ってもらうことがあります。授業への参加不可、当該時限は欠席扱いになりますので十分に事前の復習を行なって授業に臨んでください。		
【使用教科書・教材・参考書】 ※配布資料を中心に授業を行います。 ※解剖学: 東洋療法学校協会編 ※ハーフパンツなど使用することがありますので準備をお願いします。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	はり実技 I (Acupuncture practical Skills I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	池田 晋太郎
学科	鍼灸科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	90 3	開講区分	前期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	水曜 1限
【授業の学習内容】 はり術における基本的操作の修得を図り、日常的な臨床で使用する基本的な刺鍼動作を身に付ける。 前半では、人体に施術を行う前段階として、正しい技術と過誤・副反応の知識および対策を身に付ける。後半では、人体施術のために衛生操作と概念を身に付け、四肢に対し切皮痛・刺痛を与えない刺鍼技術を修得する。 ※実務経験 鍼灸教員養成課程修了。 鍼灸整骨院にて鍼灸治療に従事し、また登録販売者として医薬品の提案・販売業務にも携わる。							
【到達目標】 ①医療従事者に求められる身だしなみや態度を身に付ける。 ②はりに関する技術や知識を修得し、はり施術を安全に行える能力を身に付ける。 ③鍼と鍼管の操作を繰り返し、基本的動作を身体に覚えさせる。 ④はりの基礎実技、衛生概念、刺鍼深度・角度を使い分け、身体への刺鍼の基礎を身に付ける。 ⑤自身の身体に刺鍼して、患者側・施術者側の両方の感覚を身に付ける。							

授業計画・内容			
1回目	実習オリエンテーション、実技室の使用ルールを理解、説明することができる	16回目	ペアの足三里穴を取穴し指定された角度・深度で刺鍼できる
2回目	鍼の部位名称、種類について理解できる	17回目	ペアの陽陵泉穴、上巨虚穴を取穴し指定された角度・深度で刺鍼できる
3回目	鍼灸施術におけるリスク管理が理解できる	18回目	ペアの陰陵泉穴、三陰交穴を取穴し指定された角度・深度で刺鍼できる
4回目	片手挿管法の一連の流れが理解できる	19回目	ペアの合谷穴、曲池穴を取穴し指定された角度・深度で刺鍼できる
5回目	円滑に連続した片手挿管法ができる	20回目	ペアの外関穴、手三里穴を取穴し指定された角度・深度で刺鍼できる
6回目	鍼施術の一連動作ができる(揉捻法・押手)	21回目	実技試験(片手挿管)
7回目	鍼施術の一連動作ができる(弾入・切皮～抜鍼)	22回目	実技試験(対人刺鍼)
8回目	旋捻刺法と送り込み刺法が円滑にできる	23回目	前期の総復習
9回目	刺鍼練習台を用いて指定された角度に刺入できる(直刺)		
10回目	刺鍼練習台を用いて指定された角度に刺入できる(斜刺・横刺)		
11回目	人体施術に対する感染対策と消毒法が理解できる		
12回目	鍼施術における体位の選択と適切な取穴実技ができる		
13回目	自身の下肢に適切な消毒を施し刺鍼することができる		
14回目	ペア刺鍼の注意事項が理解できる(ワゴン操作、患者対応、ベッド操作、タオルワークなど)		
15回目	ペアの下肢に刺鍼し、切皮痛の有無や響き感覚を体験する		
準備学習 時間外学習	技術の向上には授業時間内での練習だけでは足りません。積極的に授業時間外でも練習してください。		
評価方法	・平常点(10%) ・期末(実技)試験(90%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	平常点には出席、持ち物、身だしなみ、受講態度等が含まれる。
受講生への メッセージ	はり実技Ⅰはこれからはり師を目指していく中で第一歩となる非常に大切な科目です。今まで使ったことのない手の動きや指の動きを一つ一つ丁寧にっていきます。器用・不器用は関係ありません。いつ、どこで行っても同じレベルの技術を提供できるよう、一緒に練習を積み重ねていきましょう。 また、実習科目になるので、自分勝手な行動は事故に繋がります。どれだけ些細であっても軽率な行動は重大なインシデントの起因となるため、必ず担当教員の指示に従い行動してください。		
【使用教科書・教材・参考書】 はり基礎実技テキスト、はりきゅう実技(基礎編)第2版(医道の日本社)、鍼灸安全対策マニュアル(医歯薬出版株式会社)			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	はり実技Ⅰ (Acupuncture practical SkillsⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	池田 晋太郎
学科	鍼灸科	授業 形態	実技	総時間	90	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	3	曜日・時限	水曜 1限

【授業の学習内容】

はり術における基本的操作の修得を図り、日常的な臨床で使用する基本的な刺鍼動作を身に付ける。
前半では、日常臨床で使用する刺鍼技術の種類を理解し、各種手技を身に付ける。後半では骨や筋指標を基にし、指定された刺入操作において人体への安全で正確な刺鍼ができるようにする。

※実務経験
鍼灸教員養成課程修了。
鍼灸整骨院にて鍼灸治療に従事し、また登録販売者として医薬品の提案・販売業務にも携わる。

【到達目標】

- ① 刺入深度・刺入角度を自在にコントロールできるようにする。
- ② 日常臨床で使用する手技を身に付け、使い分けができる。
- ③ ペア同士で繰り返し練習しフィードバックを行い、互いに技術を研鑽する。
- ④ 目標を設定して、指定された時間内に指定された箇所に刺鍼できるようにする。

授業計画・内容

24回目	前期に修得した刺鍼技術を再現することができる	39回目	時間内に指定された各経穴に、指定された刺鍼手技が安全に実践することができる①
25回目	管鍼法十七手技(単刺術・雀啄術)ができる	40回目	時間内に指定された各経穴に、指定された刺鍼手技が安全に実践することができる②
26回目	管鍼法十七手技(間歇術・屋漏術)ができる	41回目	時間内に指定された各経穴に、指定された刺鍼手技が安全に実践することができる③
27回目	管鍼法十七手技(振せん術・回旋術)ができる	42回目	時間内に指定された各経穴に、指定された刺鍼手技が安全に実践することができる④
28回目	管鍼法十七手技(乱鍼術・副刺激術)ができる	43回目	時間内に指定された各経穴に、指定された刺鍼手技が安全に実践することができる⑤
29回目	管鍼法十七手技(示指打法・随鍼術)ができる	44回目	実技試験(片手挿管)
30回目	管鍼法十七手技(内調術・細指術)ができる	45回目	実技試験(対人刺鍼)
31回目	管鍼法十七手技(鍼尖転移法・刺鍼転向法)ができる	46回目	後期の総復習
32回目	特殊鍼法(小児鍼)を安全に実践することができる		
33回目	特殊鍼法(皮内鍼・円皮鍼)を安全に実践することができる		
34回目	特殊鍼法(灸頭鍼)を安全に実践することができる		
35回目	特殊鍼法(鍼通電)を安全に実践することができる		
36回目	頭部への刺鍼リスクを理解し、安全に刺鍼を実践することができる		
37回目	顔面部への刺鍼リスクを理解し、安全に刺鍼を実践することができる		
38回目	肩背部への刺鍼リスクを理解し、安全に刺鍼を実践することができる		

技術の向上には授業時間内での練習だけでは足りません。積極的に授業時間外でも練習してください。

評価方法	・平常点(10%) ・期末(実技)試験(90%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	平常点には出席、持ち物、身だしなみ、受講態度等が含まれる。
------	---	---	-------------------------------

受講生への メッセージ	はり実技Ⅰはこれからはり師を目指していく中で第一歩となる非常に大切な科目です。今まで使ったことのない手の動きや指の動きを一つ一つ丁寧にやっていきます。器用・不器用は関係ありません。いつ、どこで行っても同じレベルの技術を提供できるよう、一緒に練習を積み重ねていきましょう。 また、実習科目になるので、自分勝手な行動は事故に繋がります。どれだけ些細であっても軽率な行動は重大なインシデントの起因となるため、必ず担当教員の指示に従い行動してください。
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

【使用教科書・教材・参考書】
 はり基礎実技テキスト、はりきゅう実技（基礎編）第2版（医道の日本社）、鍼灸安全対策マニュアル（医歯薬出版株式会社）

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	きゅう実技 I (Moxibustion Practical Skills I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	岸本 優介
学科	鍼灸科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	90 3	開講区 分	前 期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	水曜日・2限

【授業の学習内容】

1年次の前期では、きゅう術の基礎技術で最も大切なもぐさの捻り方から順に、適正な形・大きさ・温度を自ら手で作成できる。臨床で用いられる技①知熱灸(八分灸)を修得し、施灸時に必要な施灸時のリスク・衛生管理等も身に付け、きゅう師としての役割を理解する。

実務者経験:大学院(鍼灸学博士前期(修士)課程修了)大学院では、整形外科分野における臨床鍼灸学を専攻し、臨床・研究を行っていた。また、大学病院内(外来・病棟)での鍼灸施術および運動機能特化型デイサービスでの機能訓練指導などの臨床に関わる。

【到達目標】

以下の1)～4)の順に技術の到達目標とする。

- 1)米粒大の艾柱を作成できる。
- 2)リズムよく施灸できる。
- 3)灸温度計を使用し温度感覚を養い、自ら決めた温度で施灸できる。
- 4)皮膚上での施灸(八分灸)ができる。※リスク・衛生管理も含む。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション(きゅう道具の取扱・管理、実技室でのマナーを理解)	16回目	ペアで施灸(上肢部)ができる。
2回目	灸の基礎知識①、基本姿勢について理解できる。	17回目	ペアで施灸(下肢部)ができる。
3回目	灸の基礎知識②、米粒大・艾柱の形・大きさ、捻り方が理解できる	18回目	小テスト③ 3分間で15壮以上板上施灸ができる。 ペアで施灸(腹部)ができる。
4回目	艾柱の作成、線香の扱い方(操作・点火方法)について理解できる	19回目	ペアで施灸(背腰部)ができる。
5回目	板上施灸ができる。	20回目	試験前復習
6回目	板上・紙上施灸ができる。	21回目	定期試験①
7回目	板上施灸、灸温度計を用いて適正な温度で施灸できる。	22回目	定期試験②
8回目	板上施灸、灸温度計を用いて適正な温度で施灸できる。	23回目	解説(追・再試験)
9回目	小テスト① 1分間で5壮以上板上施灸ができる。		
10回目	板上施灸、八分灸ができる。		
11回目	きゅう施術におけるリスク管理・衛生管理について理解できる。		
12回目	小テスト② 2分間で10壮以上板上施灸ができる。		
13回目	きゅう施術における有害事象と対処法について理解できる。		
14回目	自身への八分灸①(足三里穴)ができる。		
15回目	自身への八分灸②(三陰交穴)ができる。		

準備学習
時間外学習

はり・きゅうの技術は、1日休むと倍以上に技術力が衰えます。
手の感覚を養うためには毎日もぐさを捻るように心掛けていきましょう。

評価方法	1. 定期試験(80%) 2. 平常点(20%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	①期末試験は実技試験を行う(80%)。 ②平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・小テスト・提出物・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ③成績は①+②の合計が59点未満の際は再試験を行う。
------	-----------------------------	--	---

受講生への
メッセージ

きゅう術は患者さんの心を温かく灯すことができる治療法です。気持ち良く施術ができるようになるには、日々の練習の積み重ねが大切になります。はじめは、もぐさを扱うことに苦戦しますが、必ず上達します。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版(医道の日本社)、はりきゅう理論(医歯薬出版株式会社)
ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK(滋慶教育科学研究所 JESC)
参考書:鍼灸医療安全ガイドライン(医歯薬出版株式会社)、鍼灸医療安全対策マニュアル(医歯薬出版株式会社)
資料:配布プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	きゅう実技 I (Moxibustion Practical Skills I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	岸本 優介
学科	鍼灸科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	90 3	開講区 分	後 期
コース	昼間 I 部					曜日・時限	水曜日・2限

【授業の学習内容】

1年次の後期では、前期で修得した八分灸の連続重ね八分灸を修得する。また米粒大・半米粒大・糸状大の3種類の大きさを作成し、適正な温度で施灸できるように技術を身に付ける。臨床で用いられる技②透熱灸・糸状灸を修得する。施灸時に必要な施灸時のリスク・衛生管理等も身に付け、きゅう師としての役割を理解する。

実務者経験：大学院（鍼灸学博士前期（修士）課程修了）大学院では、整形外科分野における臨床鍼灸学を専攻し、臨床・研究を行っていた。また、大学病院内（外来・病棟）での鍼灸施術および運動機能特化型デイサービスでの機能訓練指導などの臨床に関わる。

【到達目標】

以下の1)～5)の順に技術の到達目標とする。

- 1) 米粒大の重ね八分灸ができる。
- 2) 半米粒大・糸状大の作成ができる。
- 3) リズムよく施灸できる。
- 4) 灸温度計を使用し温度感覚を養い、自ら決めた温度で施灸できる。
- 5) 皮膚上での施灸（透熱灸・糸状灸）ができる。※リスク・衛生管理も含む

授業計画・内容

24回目	連続重ね八分灸を作ることができる。	39回目	半米粒大：艾炷の形・大きさ、捻り方が理解できる。
25回目	上肢の経穴に対し連続重ね八分灸ができる。	40回目	糸状大：艾炷の形・大きさ、捻り方が理解できる。
26回目	腹部の経穴に対し連続重ね八分灸ができる。	41回目	人体施灸（八分灸・透熱灸・糸状灸）ができる。
27回目	項部・肩甲部の経穴に対し連続重ね八分灸ができる。	42回目	人体施灸（八分灸・透熱灸・糸状灸）ができる。
28回目	腰部の経穴に対し連続重ね八分灸ができる。	43回目	試験前復習
29回目	下肢の経穴に対し連続重ね八分灸ができる。	44回目	定期試験①
30回目	透熱灸の方法・温熱緩和について理解できる。	45回目	定期試験②
31回目	足部（失眠）に人体施灸（透熱灸）ができる。	46回目	解説（追・再試験）
32回目	人体施灸（連続重ね八分灸（大椎）・透熱灸（身柱））ができる		
33回目	小テスト④ 5分間で30壮以上板上施灸ができる。		
34回目	複数の部位に対し連続重ね八分灸が時間内にできる		
35回目	複数の部位に対し連続重ね八分灸が時間内にできる		
36回目	複数の部位に対し連続重ね八分灸が時間内にできる		
37回目	腹部または背部に隔物灸をすることができる①		
38回目	腹部または背部に隔物灸をすることができる②		

準備学習
時間外学習

はり・きゅうの技術は、1日休むと倍以上に技術力が衰えます。
手の感覚を養うためには毎日もぐさを捻るように心掛けていきましょう。

評価方法	1. 定期試験（80%） 2. 平常点（20%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	①期末試験は実技試験を行う（80%）。 ②平常点は欠席・遅刻・早退・忘れ物・小テスト・提出物・授業態度を減点方式で計算していく。ただし、減点は20%を越える場合は、さらに減点していく。 ③成績は①+②の合計が59点未満の際は再試験を行う。
------	-----------------------------	--	---

受講生への
メッセージ

後期は、前期で修得した術を活かし、米粒大だけでなく半米粒大・糸状大の計3種類の艾炷作成ができるようになり、新たな基礎技術を修得していきます。米粒大よりもさらに小さい艾炷作成で細かい作業ですが、その一壮の艾炷がとても重要となります。前期同様に自練習・自己管理を怠らないようにしてください。一緒にステップアップしていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論 第2版（医道の日本社）、はりきゅう理論（医歯薬出版株式会社）

ずっと使える！鍼灸臨床BOOK（滋慶教育科学研究所 JESC）

参考書：鍼灸医療安全ガイドライン（医歯薬出版株式会社）、鍼灸医療安全対策マニュアル（医歯薬出版株式会社）

資料：配布プリント

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	総合医学特論 I (Holistic Medical Theory I)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	中里亮太・伊藤昌幸
学科	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分	通年
コース	I 部					曜日・時限	6月・8月・11月・12月・2月

【授業の学習内容】

本授業では鍼灸学の専門知識を深めるだけでなく、研究活動や実践的な経験を通じて、職業理解やチームワークを養う。学会参加、工場見学、イベント企画など、多角的な学びを通じて実践力を高めることを目的とする。また、学期末のまとめの試験を実施し日々の学習成果の効果測定を行う。

【到達目標】

医療人として必要なコミュニケーション力を養い、患者や多職種の専門家と信頼関係を築くことができる。将来のはり師・きゅう師の将来像を構築し必要な技術・知識を研鑽していく意識を持つことができる。

授業計画・内容			
1回目	全日本鍼灸学会に参加し、発表を聴講して研究発表の仕方、自身の研究テーマの方向性を定めることができる。		
2回目	全日本鍼灸学会に参加し、発表を聴講して研究発表の仕方、自身の研究テーマの方向性を定めることができる。		
3回目	鍼の製造工場をすることにより、道具に対する知識を深めることができる。		
4回目	もぐさ工場見学をすることにより、道具に対する知識を深めることができる。		
5回目	スポーツ大会を通してチームワーク、コミュニケーション力を高めることができる。		
6回目	医健祭で模擬店を出店し、企画・運営を円滑に行うことができる。		
7回目	学内研究発表会(we are IKEN！)にて発表を聴講して、職業理解を深めることができる。		
8回目	学外研究発表会(we are IKEN！)にて発表を聴講して、次年度に行う研究テーマの方向性を定めることができる。		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	自らテーマを決め、研究発表をするために必要なステップ(情報収集、実験、文献検索、まとめ、資料作成)を行う必要がある。		
評価方法	・出席(50%) ・期末試験(50%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	各イベントの出席率および実力試験の結果を総合して評価する。
受講生への メッセージ	この科目は、医療人として必要なコミュニケーション力や自身の将来像を構築する科目になります。様々な事項に興味を持ち積極的に取り組んでください。		
【使用教科書・教材・参考書】 適宜、必要と思われるもの。			